

卒後臨床研修室

1 スタッフ

室長（教授）	大河原 晋
副室長（教授）	山口 泰弘
	桑田 知之
	野田 弘志
副室長（講師）	菅原 大輔
	眞山 英徳
副室長（病院助教）	田村 洋行
	鈴木 伶奈
ジュニアレジデント	60名
事務（総務課）	
課長補佐（兼）	稲原 祐輔
嘱託	戸田 千晴
派遣職員	1名

2 特徴

さいたま医療センター卒後臨床研修室は2004年4月に設置された。初代室長は斎藤宗靖 前教授（循環器科）で、2004年10月から河野幹彦 前教授、2008年4月から加計正文 前教授、2016年4月から菅原斉 教授、2021年4月から大河原晋 教授が担当している。さいたま医療センターは、「患者にとって最善の医療をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とその実践を目標とし、各診療科間の垣根は非常に低く、気軽にコンサルトできる研修体制となっている。初期臨床研修プログラムには、一般研修プログラム（募集定員24名）、小児科研修プログラム（同2名）、産婦人科研修プログラム（同2名）、ホスピタリスト重視プログラム（同2名）がある。一般研修プログラムは、選択科目

を工夫することで、総合医学オープン、内科系、外科系、外科系専門科、救急科の各コースに対応している。自治医科大学附属病院、さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院等の多くの研修協力病院と連携し、臨床研修を実施している。

3 実績・クリニカルインディケーター

2004年度より必修化された卒後2年間の臨床研修の管理が主たる業務である。2023年の年間スケジュールを示す。

3月

- ・研修管理委員会（メール開催）
- ・研修修了式（3月22日）

4月

- ・オリエンテーション（4月1日～4月10日）
- ・総合回診開始（毎週水曜日午後4時から）
- ・研修医セミナー開始（総合回診終了後、毎週水曜日午後4時40分から）
- ・研修委員会（第3金曜日午後4時45分から）

7月

- ・初期臨床研修医応募受付開始（7月1日から8月5日）
- ・研修内容説明会（7月30日）

8月

- ・初期臨床研修医採用面接試験（8月後半10日程）

10月

- ・マッチング組み合わせ発表

11月

・研修医面談（J2対象：11月下旬～）

1）医師臨床研修プログラムの企画・立案

さいたま医療センターにおける医師臨床研修は従来から多科ローテート研修を行ってきた。必修化されてからも、これまでの経験を生かし、かつ厚生労働省の基準に沿ったスーパーローテート方式による臨床研修を行っている。さいたま医療センターは130万人都市さいたま市に位置し、その中心的医療施設としての地位を確立している。また、大学病院と一般総合病院の両方の性格を併せ持つ病院でもあり、多くの患者さんに恵まれていることから、診療を通して総合的な視野に立った臨床経験を積むことができる。日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応ができる基本的診療能力を身につけるとともに、医師としての人格を涵養することをめざしてプログラムを企画・立案している。

2020年度の医師臨床研修の大規模改正により、必修科目は、外科、小児科、産婦人科、精神科（各4週以上）、内科（24週以上）、救急科（12週以上、4週まで麻酔科に振替え可）、地域医療（8週以上）、一般外来（4週以上）に準拠したプログラムに変更した。

2）初期臨床研修医の教育

①総合回診

毎週水曜日、内科系病棟で研修中の初期臨床研修医が1例20分の症例提示と討論を行う総合回診を実施した。総合回診では内科系各科の指導医・上級医による評価を受けることで、レジデントは症例提示技術を向上させることができた。また、研修医同

士の相互評価とそのフィードバックを開始した。

なお、2016年8月から、発表内容が「m3.com」ウェブサイト「研修最前線」に掲載されている（表1）。この連載記事は、関係診療科の理解と協力をいただき、「m3.com」編集部が、研修医による総合回診でのプレゼンテーションを取材記事とし、大河原、眞山および菅原が校正したものである。

②研修医セミナー

2019年度より研修医セミナーを総合回診終了後の水曜日、午後4時40分から約20分間で開催している。研修医の臨床的な知識及び技術の向上を図ることを目的としている。セミナーのテーマは研修医へのアンケート結果を踏まえ、研修医が必要としている内容となるよう、各診療科にご協力いただいている。（表2）

③米国人医師による研修指導

研修医に対して、Wilfred Fujimoto 客員教授（University of Washington 名誉教授）による年2回（2週間/回）の研修指導（英語による症例検討、クリニカルクラシック）を行った。なお、Fujimoto 教授ご退官により、同教授による医学英語教育は2023年度を持ち終了することとなった。

④臨床推論（CBL）の開催

2023年度から新たな試みとして、卒後臨床研修室の副室長を中心に、初期臨床研修医を対象にした診断学の指導（CBL）を開催している。（CBL：Case based Learning）実在した症例をもとにしたトレーニングを週1回、対面での講義・指導を行い、好評を得ている。

3) 研修医の評価

2020年度から、卒後臨床研修医用オンライン臨床教育評価システム（PG-EPOC）を利用し、研修医と指導医が双方向で研修内容及び研修環境を評価している。優秀であった研修医を選出し、「優秀レジデント賞」（2011年度から開始）として延べ7名の研修医を表彰した。

また、2018年度から指導医のモチベーション維持・向上を図ることを目的として「優秀指導医賞」を創設し、2023年度は研修医により推薦された8名の指導医を表彰した（表3）。

4) 実績

他大学の見学生と実習生を370名受け入れた。研修内容説明会参加者は146名であった。ZOOMを利用して、月2回のオンライン研修説明会を実施し、参加者は延べ95名であった。

初期臨床研修医には、「埼玉県医学会総会」、「医学生・研修医の内科学会ことはじめ」や日本内科学会関東地方会などでの発

表を奨励している。

2023年4月には30名の新研修医を迎えた。また、2024年4月に研修を開始する研修医募集には応募者延べ数175名から本学卒業予定者2名を含む30名がマッチングし、内定者全員が医師国家試験に合格した（表4）。

なお、2024年3月に初期臨床研修修了後当センターの専門研修へ進んだ研修医は16名（53.3%）であった。

今後も優秀な研修医を確保するために、プログラム改善はもちろんのこと、熱心かつ優秀な指導医の育成や研修環境のさらなる整備が必要と考えられる。

2024年度に向けて、研修医教育の目標は、社会人としての人格教育について重点的に行いたい。今後は、医師の働き方改革への対応が必要である。

（卒後臨床研修室）

Email: rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

電話：048-648-5382 内線2569

(表1) m3.com「研修最前線」2023年掲載記事一覧

【研修最前線】タイトル	研修医	【研修最前線】タイトル	研修医
第141週 2023年1月7日～1月10日 Vol. 1 ホジキンリンパ腫の化学療法中に起きた呼吸困難 Vol. 2 CD4が保たれたHIV、ニューモシスチス肺炎の治療を考える Vol. 3 この患者にST合剤の予防投与は必要だったのか	関口詩織	第150週 2023年5月19日～5月26日 Vol. 1 繰り返す心窩部痛で受診する女性、またdo処方でのよいのか Vol. 2 40歳代女性の反復する“心窩部痛”、原因は脂肪腫と腸重積だった Vol. 3 「今回もdoかな」から検査指示に進めた理由	大槻拓実
第142週 2023年1月20日～1月31日 Vol. 1 決して見逃してはいけない腰痛を学ぶ Vol. 2 病巣は1つに非ず、化膿性脊椎炎の対応 Vol. 3 発熱なしでも除外しない！化膿性脊椎炎、診断と治療のポイント Vol. 4 化膿性脊椎炎、合併症検索のポイント	岩崎里依	第151週 2023年5月30日～6月6日 Vol. 1 早期手術を要した感染性心内膜炎の1例 Vol. 2 感染性心内膜炎への早期手術、適応判断を総復習する Vol. 3 感染性心内膜炎疑いで経食道心エコーを強く勧めたとき	濱田陽平
第143週 2023年2月3日～2023年2月10日 Vol. 1 嘔吐・便秘をくり返す1歳児、保存的加療から手術までの経過 Vol. 2 1歳児の腸回転異常症、手術の実際を学ぶ Vol. 3 乳幼児以降の腸回転異常症が診断困難になりがちな理由	佐藤 葵	第152週 2023年6月28日～2023年7月4日 Vol. 1 水たばこで一酸化炭素中毒を来した1例 Vol. 2 「疑わなければ診断できず」一酸化炭素中毒 Vol. 3 流行の「シーシャバー」、水たばこって何？	永井譲
第144週 2023年2月17日～2月28日 Vol. 1 解熱薬が効かない発熱と悪寒戦慄、菌血症疑いへの対応 Vol. 2 ABPC/SBT耐性の菌血症、次の一手は Vol. 3 治療途中での薬剤耐性化も、AmpC過剰産生株を知る Vol. 4 AmpC産生菌にどう挑むのか	藤井雅行	第153週 2023年8月8日～8月18日 Vol. 1 緩徐に進行した足の変調、筋力低下の原因に迫る Vol. 2 歩きづらさの原因はCIDP！診断と治療の経過を追う Vol. 3 神経診察が「何となく」になっていないか	片山優翔
第145週 2023年～3月3日～3月14日 Vol. 1 結核患者に生じた全身性皮疹、SJSか Vol. 2 多剤併用患者のSJS、初期対応と診断のポイント Vol. 3 重症薬疹、治療の基本と原因薬検索の問題点 Vol. 4 ステロイド減量中に死亡——SJSで注意要する消化管出血	田中大暉	第154週 2023年9月15日～9月22日 Vol. 1 基礎疾患の多い60歳代男性、呼吸困難の鑑別を絞り込む Vol. 2 肺血栓塞栓症の除外に造影CTの是非、判断フローまとめ Vol. 3 PTE疑い、造影CTが行えないときの対応	加藤清香
第146週 2023年3月17日～3月24日 Vol. 1 がん化学療法中の呼吸困難、救急対応を学ぶ Vol. 2 化学療法中に生じた肺炎、処置と経過を追う Vol. 3 薬剤性肺障害の疑い方と対応のポイント	子川ひかる	第155週 2023年9月29日～10月3日 Vol. 1 巨大臀部表皮嚢腫症例から粉瘤への対応を学ぶ Vol. 2 巨大粉瘤が悪性化するリスクはどのくらいか	藤田実優
第147週 2023年3月28日 Vol. 1 研修中は意外と経験しない静脈血栓塞栓症を復習する	吉田雪徒	第156週 2023年11月1日～2023年11月10日 Vol. 1 HIV患者の神経梅毒、あとから分かった性生活と既往の状況 Vol. 2 1年前に治療した患者の神経梅毒、髄液検査のポイント Vol. 3 神経梅毒の治療と効果判定で注意したいこと	浅見英伸
第148週 2023年4月4日～4月7日 Vol. 1 若年男性の化学療法中に出現した発熱と項部硬直の原因 Vol. 2 がん患者の細菌性髄膜炎はワクチンで防げるか	森裕也	第157週 2023年12月5日～2023年12月15日 Vol. 1 新型コロナワクチン接種後から長期続いた異変 Vol. 2 繰り返す再燃、コロナワクチン接種後成人スチル病の経過 Vol. 3 難治な成人スチル病、治療の選択肢と実際 Vol. 4 成人スチル病発症と新型コロナワクチンの関係と臨床的特徴	堤香穂
第149週 2023年4月11日～4月18日 Vol. 1 2日前にベッドから転落…急速に進行した筋力低下の原因 Vol. 2 低カリウム血症による筋力低下、問題は其原因 Vol. 3 ヒントは既往歴と身体所見に隠れていた	松本福子		

(表2) 2023年 研修医セミナー 実施一覧

日程			タイトル	講師名	備考
1月	11	水	「せん妄の捉え方と対応」	齋藤 慎之介 先生	メンタルヘルス科
4月	26	水	中心静脈の穿刺方法について	飯塚 悠祐 先生	麻酔科
5月	10	水	デジタル時代におけるオペレコ作成	渡部 文昭 先生	一般消化器外科
	31	水	人工呼吸器 考え方	齋藤 浩史 先生	ICU
6月	7	水	陰部の紅斑	勝又 文徳 先生	皮膚科
	14	水	切断手指の対処と治療	山本 直人 先生	形成外科
	21	水	急性大動脈解離の診断と治療	山口 敦司 先生	心臓血管外科
7月	5	水	外傷初期診療	森 仁志 先生	救急科
	12	水	頭痛と救急	藤田 和樹 先生	脳神経内科
	19	水	初期研修医が知っておきたい腎臓内科領域の知識	宮澤 晴久 先生	腎臓内科
	26	水	虚血性心疾患編：これだけ知っておけばもう怖くない	羽鳥 将史 先生	循環器内科
9月	6	水	消化管出血	石井 剛弘 先生	消化器内科
	27	水	喘息とCOPD	山口 泰弘 先生	呼吸器内科
10月	4	水	糖尿病治療（外来）について～Metforminから考える～	船崎 俊介 先生	内分泌代謝科
	11	水	発熱性好中球減少症	木村 俊一 先生	血液科
	18	水	自己抗体の考え方	長嶋 孝夫 先生	リウマチ膠原病科
	25	水	超音波プローブのウイルス・細菌汚染とその対策	桑田 知之 先生	産婦人科
11月	1	水	脳梗塞の急性期治療 アップデート	山田 健嗣 先生	脳血管内治療部
	8	水	加齢黄斑変性	御任 真言 先生	眼科
	15	水	頭蓋内出血・血腫のピットフォールと医療安全	高橋 秀紀 先生	放射線科
	22	水	食物アレルギーの評価と管理	牧田 英士 先生	小児科
	29	水	栄養療法について	眞山 英徳 先生	総合診療科
12月	6	水	泌尿器科救急疾患と尿道カテーテル挿入について	嘉指 公輔 先生	泌尿器科
	13	水	病理検体の取り扱い方	岡部 直太 先生	病理診断科
	20	水	気管切開とカニューレについて	澤 允洋 先生	耳鼻咽喉・頭頸部外科

(表3) 2023年度優秀レジデント賞・優秀指導医賞

優秀 レジデント賞	総合評価部門	西山陽一朗
	学会発表部門	尾岸 俊明
		森 弘帆
		藤田 悠希
		菅谷 聡美
	病理解剖部門	片山 優翔
	同僚評価部門	藤田 悠希
優秀 指導医賞	総合診療科	眞山 英徳 先生
	救急科	小池 倫生 先生
	救急科	柏浦 正広 先生
	麻酔科	小野 将平 先生
	南魚沼市民病院	堀 博志 先生
	大宮双愛病院	梅本 富士 先生
	大宮双愛病院	松本 浩 先生
	精神神経センター	小橋 大輔 先生

(表4) 初期臨床研修医募集定員と応募者数・マッチング状況

		一般	小児科	産婦人科	ホスピタリスト 重視	合計	自治医大 卒業生	留年者・ 国試不合格者	研修開始人数
平成31 (令和元) 年度採用	募集定員	22	2	2	1	27			
	応募者延数	75	13	9	10	—			
	マッチ数	22	2	2	1	27	3	▲ 2	28
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			
令和2年度 採用	募集定員	23	2	2	2	29			
	応募者延数	101	15	8	14	—			
	マッチ数	23	2	2	2	29	1		30
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			
令和3年度 採用	募集定員	22	2	2	2	28			
	応募者延数	146	21	17	30	—			
	マッチ数	22	2	2	2	28	2		30
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			
令和4年度 採用	募集定員	24	2	2	2	30			
	応募者延数	123	12	7	20	—			
	マッチ数	24	2	2	2	30	0		30
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			
令和5年度 採用	募集定員	24	2	2	2	30			
	応募者延数	154	16	15	36	—			
	マッチ数	24	2	2	2	30	0		30
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			
令和6年度 採用	募集定員	22	2	2	2	30			
	応募者延数	172	22	18	60	—			
	マッチ数	22	2	2	2	30	2		30
	マッチング率	100%	100%	100%	100%	100%			